

歯の欠け方が大きいときは 鑄造冠で修復します！

欠け方が大きいときには、冠をかぶせます。健康な歯を残すのが歯科医療の基本ですから、冠をかぶせるためには、歯の健康な部分をほんの少しでも削らなくてはなりません。したがって、歯が欠けてしまった部分の治療は、可能な限り、詰め物ですませます。やむを得ないケースの場合のみ、冠をかぶせます。



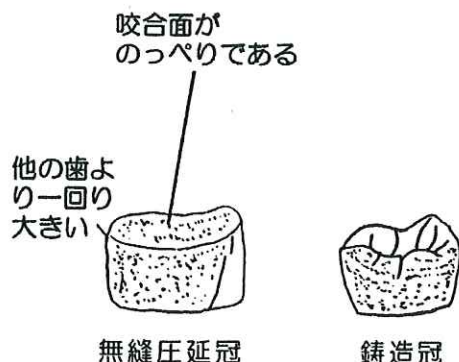
冠には、鑄造冠と無縫圧延冠（むほうあつえんかん）がありますが、無縫圧延冠は問題があるので避けるべきです。

どうしてもかぶせなければならぬ場合、残っている歯（特に歯頸部のところ）と、かぶせるものがピタッと合わなければなりません。これは、高度で精密な技術が絶対の条件です。もし合っていないと、そこから虫歯がはじまるからです。

無縫圧延冠に問題があるのは、無縫圧延冠は、金属板を圧延（プレス）して、歯の冠の形に形成するため、歯の溝が彫られていないばかりか、奥歯は、咬合面と根もとの間が、樽状にふくらんでいるからです。このままだと、かぶせるとき、このふくらんだ部分に、冠の入り口（縁）がつかかってしまい、根もとまで入らないからです。

鑄造冠は、歯をもう一度再生するように一つ一つ鑄造して作るため、ピタリ合ったものを作ることができます。

鑄造冠はオーダーメイドです。無縫圧延冠は既製服のようなもので、種類も少なく、個人個人にぴったりと合うという物は少なく、歯との間に隙間ができてしまい、ここから虫歯が発生します。また、歯肉を刺激して歯肉炎を起こしたりもします。



さらに、歯の溝が彫られていないために食べ物を十分に噛むことができません。このため、微妙な噛み合わせが狂ってしまい、いろいろな症状を引き起こす危険があります。

お知らせ

歯と歯の間に隙間ができると、歯並びが悪くなるだけでなく、隙間に歯垢（しこう）や歯石がたまって、むし歯や歯槽膿漏にもなりやすくなります。

また、1本の歯が抜けるだけで、咀嚼力（そしゃく＝噛み砕く）は25%も低下するといわれています。